論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）甲第１２３６号	氏　名	宮本　俊吾
論　文　審　査　担　当　者		主査教授　関根　一郎 副査教授　相川　忠臣 副査教授　永安　　武	

論文審査の結果の要旨

1.　研究目的の評価
劇症肝炎(FHF)は 過凝固状態による微小循環障害と壊死が特徴的である．トロンビンの受容体であり、強力な抗凝固因子であるトロンボモジュリン（TM）は可溶性 TM(s-TM)として障害された肝類洞内皮細胞より放出される．今回、ラット FHF モデルを用いて、FHF 残存肝内の微小循環障害に関する TM 発現と s-TM 値の意義を大量肝切除モデルと比較検討しようとした研究目的は明確で評価できる．

2.　研究手段に関する評価
劇症肝炎、肝切除ラットの作成、AST など肝機能関連項目の測定、血中 s-TM の測定、肝、その他臓器での TM 免疫染色など研究手段の選択とその手技は妥当であった．

3.　結果・考察の評価
結果、FHF 群は大量肝切群に比して血中 AST 上昇など肝機能障害はより高度であった．血中 s-TM 値も FHF 群での上昇が顕著であり、従来の類洞内皮細胞障害の指標であったヒアルロン酸より的確に障害度を反映していると考えられた．FHF 群と大量肝切群の免疫染色で TM 発現が肝小葉 Zone3 に観察され、FHF 群では経時的に増強した．以上、本論文は血中 s-TM と組織内 TM が FHF の重症度判定に有用な指標と成り得ることを明らかにした．　今後、外因性 TM 投与による FHF の治療面での応用の可能性もあり、高く評価できる．審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した．